

ちよつと一息、ためになる話

COLUMN

海外で頑張る日本人留学生&ビジネスマンのためのコラム

10月 紅葉

ふるさと日本の風景

LINE UP



日本就職のホントのところ



文化の違いが生む 日米ビジネストラブル



アメリカ社会におけるキャリアUP方法



中国ビジネスの常識・非常識



学生の品格

また、語学力をアピールするのも楽ではありません。職種にもよりますが、英語を武器にしたいならTOEICで最低700点出来れば800点以上は欲しいところです。600点程度だと、国内学生でも多くの人が取っていますし「わざわざ留学した割には」と思われるリスクがあります。

では、アピール材料で頭を悩ませている、多くの方はどうすればいいのでしょうか？

「ストレス耐性が高い」だけで就職は有利になる

語学力や、学校での専攻(メジャー)はどの程度、就職活動において武器となるのでしょうか？ また、どのようなアピールを行うことが有効なのでしょう。

第一回で、多くの企業では留学生を特別扱いしないことをお伝えしました。つまり、就きたい仕事に関連した勉強をして、必要なら資格を取得しておくことは基本中の基本と言えます。特に、今後日本で需要が見込まれる分野(不動産鑑定等)、専門人材の数が不足している分野(ソフトウェアサイエンス等)であれば、アピールしやすくなります。しかし、実際にこうした専門性の高い分野の勉強をしている人は少ないでしょう。

みなさんは留学生である時点で、この点では有利と言えます。異国で生活しているだけで、日本にいるよりストレスは強いはずで、出来れば「日本ではあり得ないこと(なるべくストレスの高い環境)を経験し、そこをくぐり抜けた実績を作ることがベストです。例えば日本人が「切れないクラス」に所属する、難しいプロジェクトのリーダーを買って出る、あえて日本人以外の友人しか作らないといったことを通じ、アピール材料を増やすのはもちろん、本当の意味でも自分自身の限界点を高め、ストレス耐性を強化しておきましょう。

は、今日の日本企業が直面しているある大きな課題がヒントになります。それは「メンタルヘルス」の問題です。新卒や若手を採用しても、ストレス耐性が低くすぐ辞めてしまう。あるいはうつ病になってしまうというケースが近年激増し、日本社会の大問題となっているのです。採用選考時に何とかしてメンタル面の強さを測りたいと多くの企業が考えており、裏を返すと単純に「ストレス耐性が高い」と思われるだけでも、就職は有利になります。同じ能力ならもちろんのこと、多少経験や学歴が劣っていてもストレス耐性が高いことを人事担当者にアピール出来れば、大きなアドバンテージとなります。

【日本就職のホントのところ】

留学中に絶対に経験しておいた方が良いことは？

第2回/全6回



日本社会が抱える大問題は留学生には有利に働く

就職活動において、留学生は何をアピールすれば良いのか？ その答えは、日本企業が直面している、ある大きな課題がヒントになる。今日の日本社会が抱える「メンタルヘルス」の問題。ここにこそ、留学生のアピールポイントが隠されているのだ。



ベリタスコンサルティング株式会社
代表取締役社長

坂尾 晃司

Koji Sakao

Profile

1989年東京大学法学部卒、(株)リクルート入社。組織人事コンサルティング室を経て独立、2000年ベリタス・コンサルティング(株)設立。組織・人事領域を中心とした経営コンサルティング活動を行っている。